

4月24日（水）、市長が朝の幹部会で職員に対して次のように発言しました。

○「市民の話をとことん聞いて！」

今までは、役所は書類を作成する上で期日が決まって回答を行っていた。これからは、職員は市民の話をとことん聞いてほしい。

市役所は、地域福祉計画、自治基本条例など色々な計画を策定する。これらの計画は、役所のためにあるのではなく住民のためにつくるものです。したがって、計画づくりは手間をかけても市民と一緒にになって練り込んでほしい。その結果、計画の策定スケジュールが遅れることはやむを得ない。計画策定に費やした時間は市民福祉に使ったので、決して無駄なプロセスを経たものではないことを理解してほしい。

○「市民主体ならば、自治会や地域の人たちにも相談しよう」

地域によって、それぞれ違う課題がある。地区別のメンバーで「ワールドカフェ」※をしたらどうだろう。

先日、住民の方から教育上の悩みを伺う機会があった。色々悩みを聞くことが出来たが、役所の個々の課には色々制度やきまりがあり、そうした悩みを持つ人に一つの部署では対応できないことが多い。このケースは、一人や一つの課だけで対応を考えるのではなく、複数の部署と一緒に考えることが出来るような仕組みづくりが出来るよう改善してほしい。教育の問題でも同様に、教育委員会だけで取り組むにはおのずと限界があり、包括的な支援につながる

ない。別の部署の応援を借りたり、市内の教育経験豊富な高齢者の支援を受けることで、一人の市民の悩みが解決できることもあると思う。

○「各部署が連携し事業を行おう」

市役所の各部署では、それぞれが色々な計画に基づいて業務を行っている。それぞれの課が単体で事業を行うのではなく、連携をしよう。

日本一の福祉のまちをつくり上げるには、従来のスタイルの行政の取り組み方を、多角的、多面的に考え、対応する力をつける事と、市民の力をそれに組み込む仕組みをつくるのが、とても大切ではないだろうかと考えています。幹部職員はこのことを原点として考えてほしい。

※ ワールドカフェ

ワールド・カフェは“カフェ”のようなくつろいだ空間の中で、参加者が少人数に分かれてテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルのメンバーと入れ替わりながら話し合いを発展させていくこと。相互理解を深めることができる、という可能性を秘めた話し合いの手法です。